

日本：貿易統計（2016年11月）

—外需の持ち直しにより、輸出数量は改善傾向—

MRI Daily Economic Points

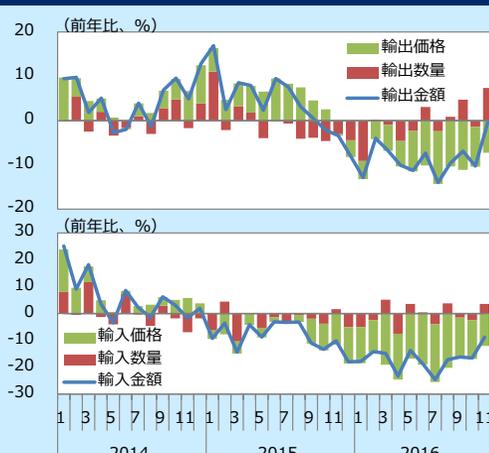
December 19, 2016

貿易収支

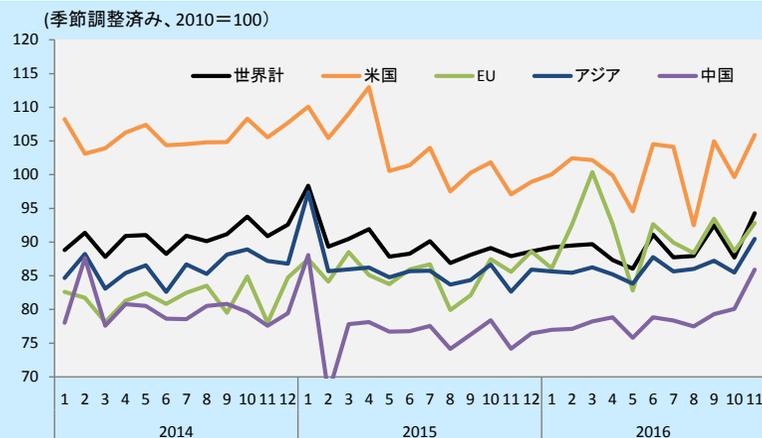


資料：財務省「貿易統計」より三菱総合研究所作成

輸出入金額の寄与分解



地域別輸出数量（季節調整値）



資料：財務省「貿易統計」より三菱総合研究所作成 ※三菱総合研究所による季節調整値。

評価ポイント

16年11月の結果

- 16年11月の貿易統計は、輸出金額が前年比▲0.4%と14ヶ月連続で減少したものの、マイナス幅を大きく縮小させた。輸入金額は、同▲8.8%と22ヶ月連続で減少。貿易収支（季節調整値）は、+5,361億円と13ヶ月連続の黒字。
- 11月の輸出金額の内訳をみると、輸出価格は前年比▲7.3%と13ヶ月連続のマイナスとなった一方、輸出数量が同+7.4%と比較的大きなプラスとなった。
- 地域別の輸出数量（当社にて季節調整）をみると、いずれの地域向けでも前月対比で増加した。米国向けは、輸送用機器の増加が主因となり、季節調前月比+6.2%と高い伸びをみせた。EU向けも、電気機器や輸送用機器の増加から、同+4.7%のプラスとなり、底堅さを示す結果となった。アジア向け（同+5.9%）は、新型スマートフォン向け部品とみられる電気機器輸出の伸びが引き続き堅調なほか、一般機械や輸送用機器など幅広い財で増加し、高い伸びとなった。
- 輸入金額は減少が続いている。11月の輸入数量は、前年比+3.6%の上昇となったものの、前年の水準に比べ円高・原油安が続いていることから、輸入価格が同▲12.0%と下落した。

基調判断と今後の流れ

- 足元の輸出は、海外経済の緩やかな回復から、持ち直しの動きがみられる。
- 先行きの輸出は、米国経済の堅調持続やアジア地域の内需回復に加え、米大統領選以降の円安進行もプラスとなり、持ち直しが続く予想する。もっとも、新型スマートフォン関連輸出の一巡や世界的な投資需要の弱さが重石となり、輸出全体としては緩やかな回復となるだろう。
- 海外経済は不確実性の高い状態が続く。米国新政権の政策運営や中国経済の減速スピード次第では、海外経済の悪化や円高が進行し、輸出の下振れ要因となるリスクがある。